

柞乃杜

秩父神社社報

柞乃杜(ははそのもり)

第 54 号

(大 祭)

平成28年12月3日



奉祝 ユネスコ無形文化遺産登録

月夜まで

星の輝く十二月

いよいよ三日は

秩父夜祭

ユネスコ無形文化遺産登録を祝う

今年の弊社例大祭祭典に 大輪の菊華を飾るように
世界の無形文化遺産に登録の吉報が届きました。

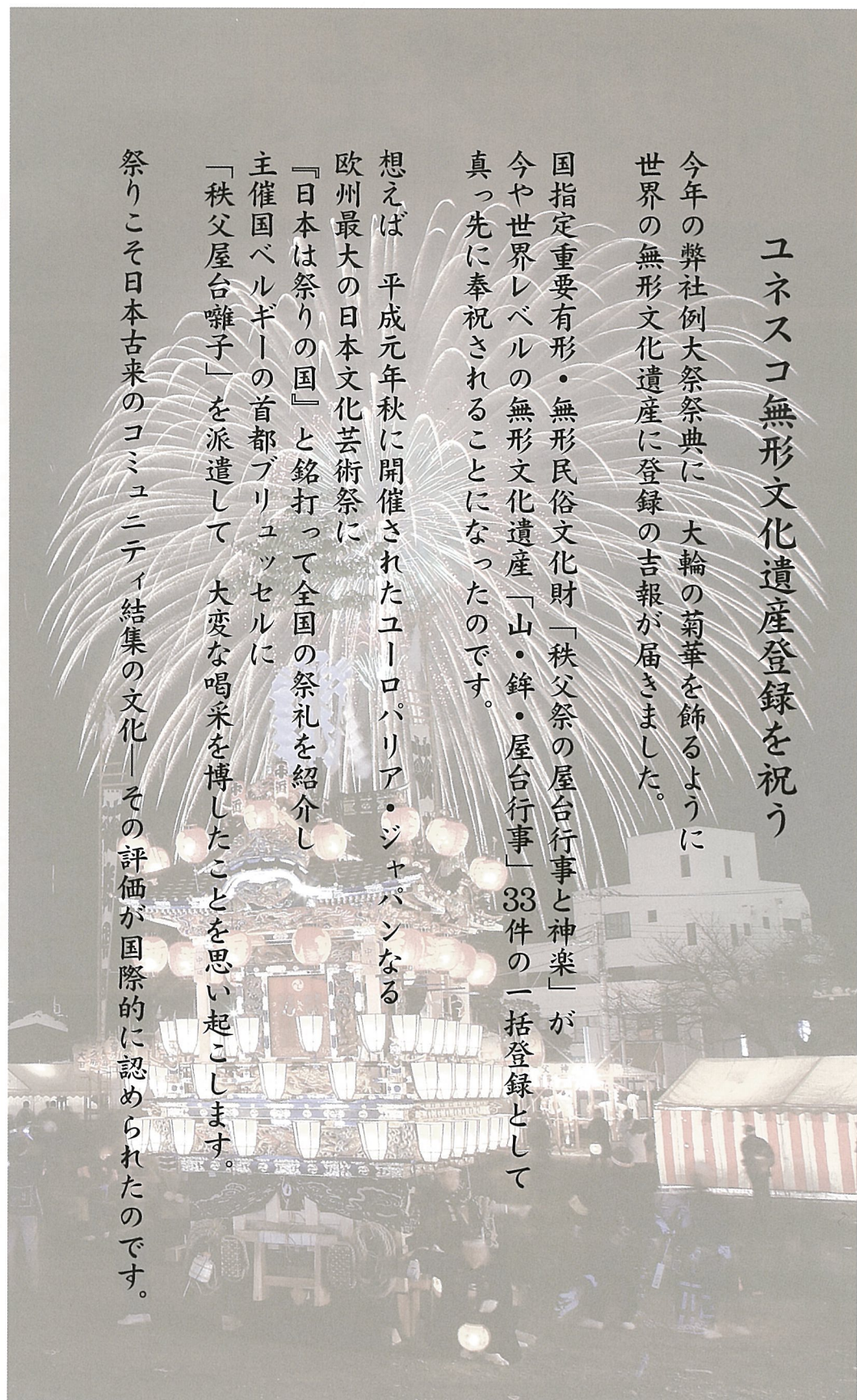
国指定重要有形・無形民俗文化財「秩父祭の屋台行事と神楽」が
今や世界レベルの無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」33件の一括登録として
真っ先に奉祝されることになったのです。

想えば 平成元年秋に開催されたユーロパリア・ジャパンなる
欧州最大の日本文化芸術祭に

『日本は祭りの国』と銘打って全国の祭礼を紹介し
主催国ベルギーの首都ブリュッセルに

「秩父屋台囃子」を派遣して 大変な喝采を博したことを思い起こします。

祭りこそ日本古来のコミュニティ結集の文化——その評価が国際的に認められたのです。



解説

秩父神社 (53)

◆「旧暦の妙見祭礼」

(蔭まつり) 前編

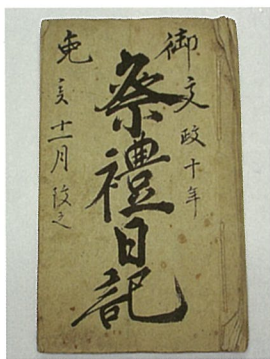
権福宜 甲田豊治

此の度の夜祭において、御鎮座二千百年奉祝事業の一つである斎場整備が完了し、二百年ぶりに製作された平成の「亀の子石」と新たに二基の鳥居が整えられた。

初代の「亀の子石」が製作されたと伝わる江戸後期・文化年間。そのほぼ同時代文政十年から始まる「祭礼日記」が市内中村町に所蔵され、当社「妙見祭礼」を今に伝えている。

その「日記」には、妙見祭礼の月(霜月)が閏年(閏月)になる年は特殊祭礼として「蔭まつり」が行われていた記録が確認され、とても貴重な資料であることから、今回は、その旧暦における妙見祭礼について述べてみたいと思う。

その前に、今年の夏リオデジャネイロを会場に、オリンピック・パラリンピックが開催された。この四年



祭礼日記 文政10年～嘉永3年

に一度のスポーツの祭典が開催される年を、「閏年」と連想される方も多くいるのではないかと思います。しかし、そうとは限らないのである。

現在(新暦)の「閏年」について調べてみると、「明治31年5月11日勅令第90号」の規定を確認することが出来る。

「神武天皇即位紀元年数ノ四ヲ以テ整除シ得ヘキ年ヲ閏年トス
但シ紀元年数ヨリ六百六十ヲ減シテ百ヲ以テ整除シ得ヘキモノノ中更ニ四ヲ以テ商ヲ整除シ得サル年ハ平年トス」

即ち、「神武天皇即位年数が四で割り切れる年を閏年とする。但し、即位年数から六六〇を引いて百で割り切れ、更に、その答えが四で割り切れない年を平年とする。」としている。中々興味深い内容である。

現在の暦における閏年は、一年三百六十五日に一日を加えた計算であるが、旧暦では、十九年間のうち七回閏年を配し、一ヶ月間増やした「閏月」を設けて一年を十三ヶ月としていたのである。そう言えば、斎場の亀の子石に現れる妙見の姿「大幣」には、平年は「十二の結び」を施すが、閏年には「十三の結び」が施されている。これは旧暦の閏月の月数「十三」を表わしていることと改めて確認出来た次第である。

そもそも、我が国における暦の歴史を見てみると、
○「日本書紀」に欽明天皇十四年(五五三)百済に暦博士の来朝を要請、翌年二月に來日したと記され

ている。

○推古天皇十年(六〇二)百済より暦法や天文を学ぶために僧・観勒を招き暦本や天文書が伝わった。

○大化の改新(六四五)で定められた律令制では、「占い・天文・漏刻・暦の編纂」を担当する役職が定められ、内務省の陰陽寮がその任を務めていた。

○持統天皇四年(六九〇)「勅を奉りて始めて元嘉暦と儀鳳暦を行う」とある。

ここで、我が国の暦法一覧を示すと、次の通りである。

元嘉暦(持統天皇六年・…《692》)
儀鳳暦(文武天皇元年・…《697》)
大衍暦(天平宝字八年・…《764》)
五紀暦(天安二年・…《858》)
宣命暦(貞観四年・…《862》)
貞享暦(貞享二年・…《1685》)
宝暦暦(宝暦五年・…《1755》)
寛政暦(寛政十年・…《1798》)
天保暦(弘化元年・…《1844》)
グレゴリオ暦(明治六年《1873》)

この元嘉暦・宣命暦は、中国暦をそのまま用いており、中でも宣命暦は諸事情から八百年間改暦がされないまま続いた結果、実際の季節(二十四節気)と暦に相違が発生。そこで日本の地に則した暦「貞享暦」が洪川春海によって編纂されたのである。

因みに、当社殿には天和二年(一六八二)の墨書きが残っているが、まさに同時代の出来事である。

この貞享暦以降、日本の暦は、宝暦・寛政・天保と改暦が進み、明治

五年十二月二日まで太陰太陽暦を用いていたのである。

この事を踏まえ、次回冬号(第五十六号)にて、中村町に伝わる「祭礼日記」天保三年(閏霜月)について述べてみたいと思う。



写真上段右より

和漢三才図会 寺島良安 正徳二年(七二二)

龍頭長暦 小泉松卓 貞享五年(一六八八)

改暦辨 福沢諭吉 明治六年(一八七三)

写真下段右より

三嶋暦 文久三年(一八六三)の暦

文化十年暦(一八三三)

文化十二年暦(一八四五)

明治五年暦(一八七二) 大星學局

明治八年暦(一八七三) 文部省天文局

ユネスコ世界文化遺産から祭礼博物館の設立へ

宮司 藺 田 稔

弊社例大祭を中核とする「秩父夜祭」の屋台行事が、大祭当日を奉祝するようにユネスコの世界無形文化遺産への登録というビッグニュースを受け取るようになりました。

文化庁を通じて何度かの登録申請の努力が実つて、ようやく全国の国指定重要無形民俗文化財33件の「山・鉾・屋台行事」という曳山祭礼が、一括登録の方式でユネスコの公式認証に成ったものとはいえ、時あたかも弊社の大祭当日に吉報に接する幸運に恵まれたことは無上の光栄と喜びに存じます。

弊社と致しましては、一昨年の御鎮座二千年年という百年に一度の式年大祭に引き続いての記念事業を執行しているさなかであつて、あるいは秩父大神の更なる御勢威の賜物とも拝察するところですが、何よりも江戸時代から全国屈指の曳山祭礼に仕立て上げて下さった郷土の町衆たちと、大戦後以来の現今に至る厳しい社会経済上の困難をしのぎ切つてこの祭礼行事の伝統を現に守り伝えて来られた各町内の氏子崇敬者各位のお喜びは如何ばかりかと、謹んでお祝い申し上げる次第です。

○ 本紙の表紙裏にも言及しておりますが、ひと口に「日本は祭りの国」であり、祭りこそ日本古来のコミュニティ結集の郷土文化であります。このことは、私事にて恐縮ながら小職が半生をかけて実証的に学んできた確信でもあります。秩父地方ばかりではなく全国に普く地方の地域社会には、例外なく郷土自慢の祭礼文化が今に

伝承されています。

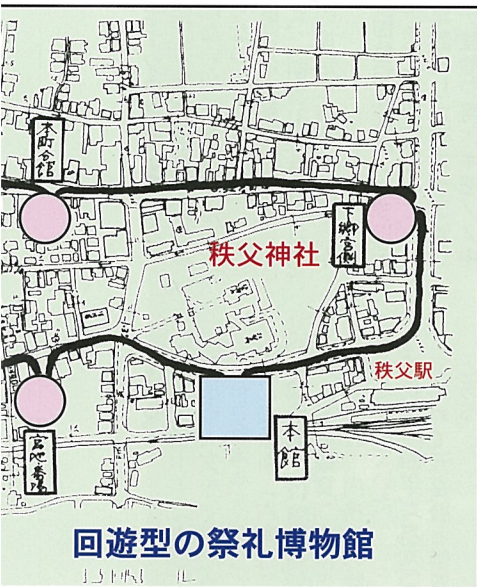
さすがに近現代の急激な社会変動のなかで一時は極端な都市化と過疎化に晒され、今は未曾有の高齢化と少子化に悩まされたり、頻発する大規模な自然災害に打ちひしがれたりして住み慣れた家郷の存続が危ぶまれたりしながらも、むしろそれだからこそ祭礼や郷土芸能の復興を手掛かりにコミュニティの存続に心を砕き合う住民の姿を見聞きしています。

○ ではなぜ日本の祭りは、それほどに根強い文化なのか。

それは、日本の祭りが本来、それぞれ各地の山水風土の恵みへの祈りと感謝を季節の折ごとに再現するコミュニティ再生の総合文化であるからこそなのです。

○ そもそも日本人古来の根強い生命の共有感覚には、生気の盛衰を心身の清浄と不浄の感覚に応じて実感する一種の倫理的感覚を持ち合わせています。生気あふれる清新な心情をハレ(晴れ)と感じ、日常の氣力をケ(鬱)と表し、氣力の衰退をケガレ(分枯れ・穢れ)と感じてきました。霊的に捉えた生命力(イノチ)の勢いをハレからケ、ケからケガレと生気を失う心情を踏まえてハレの祭りをもつてケの氣力を取り戻す。これが祭りの氣力再生の力なのです。もとより、それはコミュニティ結集の祭りでこそ成就する共同体文化に他なりません。お互いに心身の穢れを祓い、地域を清めて神々を迎えるのもハレの祭礼に大切なことなのです。

○ こうした日本民族古来の祭礼文化に根ざす深層心情を如何に自覚し、今後のコミュニティ再生に活かすことができるか。要するに、今回の曳山祭礼が日本の誇る無形文化遺産としてユネスコに登録されたことを好機として、本格的にその価値を国の内外に展覧することが是非とも求められます。何故なら、今回の

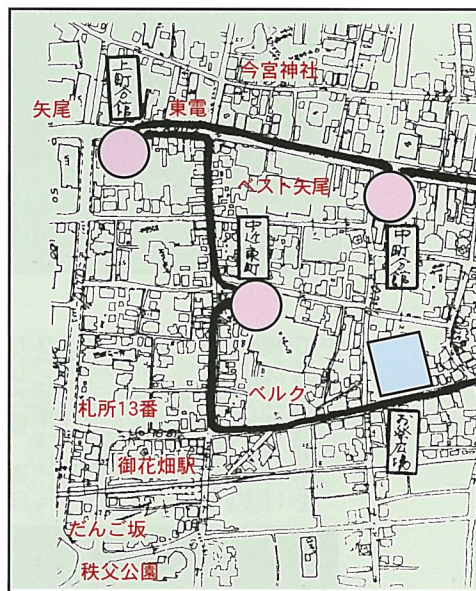


世界文化遺産に登録された曳山祭礼は我が日本の祭礼文化のほんの一部に過ぎず、また他にこれ等を遙かに凌ぐ多彩で伝統豊かな祭礼が各地に存続している実態をも、総合的に紹介する機構や施設を備える必要があるからです。

○

そこで今回のユネスコ世界無形文化遺産の認証を絶好の好機と捉えて、かねてより小職が本誌に提唱を重ねてきたところの本格的な祭礼文化の総合博物館を、ここ「祭りのメッカ」秩父市内に設立することを改めて提案させていただきます。

もとより当地には弊社に隣接する第三セクター経営の「秩父まつり会館」があつて常時観光客にも秩父夜祭の魅力を紹介しておりますが、残念ながら各地の祭礼会館と同レベルの固定展示に留まつて観光拠点



の博物館」にして訪れる多くの観光客に中心市街地の回遊を促すこともできます。

かくして世の情報化時代にふさわしい秩父観光のグランドデザインではないでしょうか。

【表紙解説】

今回の表紙は、面目を一新致しました「亀の子石 御旅所斎場」を市内上町にお住いの幸島 潔氏に撮影を依頼し掲載を致しました。

幸島氏はお仕事の傍らカメラを趣味として夏・冬のお祭りは勿論、各地のお祭りにも参加し、撮影をされ当社社報でも度々掲載をお願いしております。

昨年新たになった「亀の子石」に二基の鳥居が整備され、御鎮座二千年奉祝記念事業の第一期とした斎場整備が完了致しました。前方の鳥居は「亀の子石」に、そして後方の鳥居は神奈備山である「武甲山」を望むように配置されています。

万治二年（一六五九）の井上家文書に「祭の前宵大宮の神輿を出して山上の神をむかへ山上の神も大宮に來臨し給ふなりといへり」とあります。

こうした歴史的意義を踏まえた上で連綿と続く秩父の人々の信仰と祈りの場として永く守り続けて参ります。



【表紙歌解説】

月冴えて星の輝く十二月
いよいよ三日は秩父夜祭

今回の短歌は歌と観照・武蔵野歌人会所属、市内野坂町にお住いの当社前権宮司浅見武史氏ご夫人美和子様の作品を掲載させて頂きました。生地の狭間を彷徨い一命を取り留められました。その後四十日程の入院を経て以前の様に回復されました。医師の懸命な治療、家族の献身的な介護もさることながら、秩父神社の妙見さまのご加護もあったものと思います。

病後まる五年を過ぎ、命拾いの証にと此の度、歌集『妙見の杜』を上梓され、此の短歌も収められております。今後、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

今は亡き三笠宮殿下 お手植えに寄せて



三笠宮崇仁親王殿下には、去る十月二十七日午前八時三十分、心不全のため、東京都中央区の聖路加国際病院にて薨去なされました。

先の十一月四日には、皇族ゆかりの豊島岡墓地にて本葬に当たる「斂葬の儀」が厳かに斎行された由、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。享年百歳の長寿を全うされましたが、大正天皇の第四皇子であらせられ、昭和天皇、秩父宮、高松宮と三人の兄宮を見送られて後、今上陛下唯一の叔父に当たられ、皇位継承順位は第五位のお立場であらせられました。

弊社との御縁りにつきましては、薨去後の翌二十八日の産経新聞埼玉版および埼玉新聞にも報道されましたが、特に、平成四年五月三十日に、戦時中は陸軍少佐として習志野連隊に居られた誼で戦後結成された「習志野三笠宮会」という戦友会が秩父で開催された折

に弊社にもご親拝を賜わり、宮司が境内をご案内申し上げたところで社殿西側の一角に予め準備しておきました珍種のケヤキの苗を御手植えして下さいました。ご参拝の折には、兄宮の秩父宮雅仁親王殿下にはご成婚後の昭和八年に同妃勢津子殿下とご同伴で弊社ご親拝の節にやわり銀杏の苗木二本を御手植え賜わったことをご紹介申し上げ、なお昭和二十八年一月四日に齢五十歳の若さで帰幽なされた秩父宮殿下のご遺徳を拝してその直後に当地で結成された社団法人「秩父宮会」が御神霊を弊社にお祀り申し上げ、以後毎年五月三日には秩父宮祭を斎行致しておることもお伝え申し上げたところ、深く首肯され御感あらせられたご様子と拝察致したことでした。

ちなみに御手植え賜わったケヤキはその青葉に白斑の入る珍種で、とりわけ若葉の頃は清々しく、今では立派に育って参拝客の目を引く若木に成長しております。

(宮司謹誌)



氏子青年会報告

三峯神社登拝と「禊」研修

副事業部長 坂本孝夫

9月10日(土)、園田権宮司、守屋権禰宜にも同行いただき、井深会長をはじめ、総勢20名で三峯神社登拝と禊研修を行いました。

9月に入り、雨の降る日が多く、直前まで天候を心配しましたが、当日は晴天に恵まれ、一行は秩父神社を出発いたしました。

まずは「禊」研修です。三峯神社朝日則安権禰宜様に道彦をお勤めいただき、大輪より約30分ほど山道を登って行くと禊祓場となる清浄の滝へ到着します。

各自、白鉢巻、

白褌となり、滝の傍らにありま

す清浄宮にお参

りした後、道彦

のご指導のもと、

「エーイツ、

ホッ」と大きな

掛声をかけなが

ら、船を漕ぐよ

うな仕草を繰り返

します。その

後20分ほどかけ

て様々な所作を



繰り返した後、いよいよ滝へと入水いたします。思った以上に水は冷たく、また水量も多く会員一同、肩まで水に浸かり、大声で祓詞を唱え、無事に「禊」を終えることが出来ました。

その後一行は三峯神社へと移動し、正装に着替えた後に拝殿に進みました。「禊」の効果でしょうか、まさに清々しい気持ちで正式参拝をさせていただきました。

私にとって初めての「禊」体験でしたが、大変よい経験となりました。皆様も機会がありましたら、ぜひ体験しては如何でしょうか。

今回、三峯神社の皆様には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

梟だより



ご鎮座二〇〇年奉祝事業

奉賛者御芳名簿(3)

平成二十八年七月〜十月迄

神社扱い

銘板土台石材

新井 孝夫・新井 大雅

二十万円 小鹿野講元松本 守

十五万円 瀬戸 朋義

十四万五千円 高柳 君江

十二万円 町田 久雄

十一万円 株大島博明建築研究所

十万円 蛭子 悠加・関口 誠

八万円 横田 俊治・横田 直子

横田 正名

六万円 草野 紀英

五万五千円 秩父歌舞伎正和会坂本益義

五万円 明石 誠二・峰岸 政光

三万円 有雄 企

二万円 黒沢 行利

一万七千円 原島チヤウ

一万円 恵比寿クリニーク 種子裕佐支

堀越 瑤盛・佐久間久枝

市木 恒弘・荻原 寛迪

清水 保夫

五千円 野口 傑・荻原 慶子

◆お詫びと訂正

前回配布致しました御奉賛名簿に誤りがございましたので、ここに訂正させて頂きお詫びを申し上げます。

宮側町地区

五千円 大隅 聡

上町地区
五万円 笠原又次郎
中村町地区
十万円 タジマ薬局公園橋店
一万円 小池 章
五千円 長谷河一昭

◆奉納報告

その一



当社上
宮地講が
平成二十
七年十月
四日の参
拜にて結
成四〇周
年を迎え
これを記
念して金
十一万円
のご奉納
がありま
したので
ご報告致
します。

その二

此の度、当社を祀る四之宮興守として東京都府中市大國魂神社例祭にお務めされています、東京都稲城市百村にお住いの松本幸次郎様が稲城市消防団団長としての永年の功績に對して藍綬褒章を受章されました。これを記念して御浄財をご奉納頂きましたのでご報告致します。

その三

秩父神社氏子青年会上町地区が十

月三十日の参拝にて熊手七本のご奉納がありましたのでご報告致します。

◆秩父夜祭絹市開催

〜ちちぶめいせんマルシェ〜

かつて秩父夜祭には、大きな絹市が立ち年間最大の絹取引が行われ、多くの人が集まったとされています。近年絹織物に対する関心も高まったことから、今年の夜祭に絹市が復活する事となりました。

○日時 十二月二日(金)
十二月三日(土)

十二時〜二十時
十二時〜二十時

○場所 黒門通り、買継商通り
(秩父市番場町)

○内容 絹関連商品の展示・販売等



◆秩父神社妙見講

自 平成二十八年 九月
至 平成二十八年十一月

九月 三日 荒川妙見講

浅海 忠講元外九十八名

九月 四日 小鹿野講

松本 守講元外九十一名

九月十一日 上町講

島崎弥平講元外百八十四名

九月十九日 中村講

高橋徳太郎講元外二百四十七名

十月 二日 上宮地講

大島耕造講元外百七十七名

十月二十二日 東町妙見講

三友直彦講元外九十名

十月二十三日 中町講

久保忠太郎講元外百二十二名

十月二十九日 桜木講

濱田雄司講元外四十二名

十一月六日 番場妙見講

江原伸治講元外百一名

十一月十七日 野坂講

浅見伊久雄講元外百六十六名

◆柞乃杜神前結婚式報告

秩父市本町 山口正樹・亜澄様
神奈川県横浜市 千島啓介・結生様
栃木県宇都宮市 小鹿原 克・弘華様
所沢市小手指町 穴戸亮介・ちえり様
深谷市本田 田村英樹・唯 様
東京都中野区 阿佐美宙士・翔子様
秩父市大野原 三上紀之・美沙様
小鹿野町長留 豊田貴史・絵理様
皆野町皆野 小澤拓人・希美様
東京都板橋区 原田 豊・朋子様
末永く幸せな家庭をお築き戴きますよう
お祈り致します。

◆御旅所鳥居新築工事
並びに整備工事完了報告(続)

荒木社寺設計

代表取締役 坂本 勝
取締役専務 坂本 智徳

上屋彫刻の絵様を考えるにあたり、秩父神社の神門、神楽殿、手水舎に素晴らしい彫刻が数多くあり、構造、絵様共にこれらに習うのが一番ではないかと考えました。基本的な構成は神門に見られる渦と若葉からなる力強く且つ流れる線を出すよう注意し、神門には宝相華といわれる仏教美術に使用される華文様があり、その周りの唐草も桃山調の優雅なもので、これが独特な雰囲気演出していると考え、幕股(虹梁上部の彫刻)にはこの模様を使用することとしました。虹梁、実肘木もこの雰囲気壊さぬよう、部材の役割を発揮できる構成としました。支輪彫刻は、武甲山の水源が秩父



の自然や文化を造ってきたという事を表現するため「流水」を背景にし、南側(夏)に武甲山から流れる水の絵様、東側(春)に桜と桑の葉(繭玉)、北側(冬)に牡丹と菊、西側(秋)に楓と銀杏を配し、四季を表現することで四方性を持たせました。牡丹は夜祭山車彫刻にも数多く登場するため冬の絵様とし、建物内部については神域性を高めるため統一し幕股は字彫りに華紋、支輪は流水のみとしました。鳥居は、柱間約十三尺三寸(約四四)高さ約十七尺(約五五)総檜造り、柱径一尺二寸五分。材は大総代、富田孝様所有の山林より選木し、昨年十二月に伐採、葉枯らし、製材した後当社にて自然乾燥しました。提供頂いた絵は、図面寸法ぎりぎりであるものが多く、機械での製材は最小限にとどめ、木挽き(手作業)による木取を行いました。原木の大きさを最大限利用したためほぼ丸太に近い径で、皮に近い場所ほどヒビがやすく、そういういった観点から表面のヒビも楽しんで頂けるかと思えます。

鳥居脚部の杵石ですが、基壇同様茨城の真壁石中目を使用しました。

鳥居の耐久年数は二〇〇三〇年と云われ、建て替えの際、再度使用できるように石は二割としました。

一本の丸太がどれだけ貴重で年数をかけて成長するかという事を深く考えさせられ、原木を最大限利用し、材を無駄にしないという考え方を後世に残す意味でもこの事業に携わられたことに深く感謝申し上げます。

◆「郷土神事芸能大会」開催



例大祭神賑行事として、十二月四日の蚕糸祭に合せ秩父を代表する獅子舞団、神楽団が一同に集い「郷土神事芸能大会」を開催します。

獅子舞は「黒谷獅子舞保存会」「久那獅子舞保存会」「矢行地獅子舞保存会」に協力頂き、午前中は境内において奉納、午後は神社境内・本町・東町・番場町の会場を巡回します。

また、神楽殿では神明社所屬神楽「白久御神楽座」、下吉田「貴布祢神楽」当社附屬神楽「秩父神社神楽」が各二時間という限られた中で、賑やかに祝い舞いを奉納します。盛大で華やかな神事をご覧ください。

【獅子舞】

境内での奉納団体

- 黒谷獅子舞保存会
- 久那獅子舞保存会
- 矢行地獅子舞保存会
- 久長元耕地獅子舞保存会
- 午後一時からの奉納場所
- 久長獅子舞 本町 埼玉縣信用金庫
- 矢行地獅子舞 東町 坂上商店前
- 久那獅子舞 番場町 妙見の森公園
- 黒谷獅子舞 神社境内平成殿前

編集後記

■ここに社報第五十四号をお届け致します。

■近年、円安の影響もあってか訪日外国人人数が増加しています。日本政府は、今年度の訪日外国人人数が二十万人を超えたと発表致しました。それは東京に限らず地方にも影響を及ぼしており、当社においても参拝の姿を拝見致します。多くの外国人が全国の神社で見られることは、神社が持つ伝統文化に魅了されたからに他なりません。

■多くの皆様より御浄財をお預かりして平成二十七年三月より始まりました御旅所造成工事十一月九日の鳥居建立をもちまして完遂の運びとなりました。今年の大祭は土曜日に当たり、二百年の時を超え、新装になった御旅所で秩父市民並びに全国また世界からの参拝者と共に神々をお迎えし、神人和楽の一夜と致したいと存じます。



※ 本報の用紙は再生マツト紙を使用しています。

平成二十八年(二〇二六)十二月三日
発行 秩父神社社務所
編集 秩父神社社務所
〒360-0044 埼玉県秩父市番場町一三
TEL (0494) 221-0262
FAX (0494) 241-5596
印刷所 有限会社 拓文社印刷所
〒360-0044 秩父市東町二七一八